friendship force AICHI

Newsletter

No.104

春の受入交換・ブラジルから18名　3月25日～4月2日

[ブラジル交換を終えて]　ED: 土居 陽子

EDを受けることが決まってから相手先のEDと交換のプログラムと新幹線の切符についてどれだけメールのやり取りをしたことかしれません。そのせいか名古屋駅に到着されたときにはまるで古い友人に再会したような気持でした。余り英語を話されるメンバーが多くなくホストの皆様はご苦労なさったことと思います。言葉が通じないと何とか気持ちを伝えようと工夫したり努力するので交換がまた違った印象になったのではないかと思いますし、これがコミュニケーションの原点かもしれません。ちょうど桜のつぼみから開花までの移り変わりそして日本人の桜に対する思いを見ていただけ本当に良かったと思います。ブラジル人の明るい性格に触れることができたこと、そして交換のEDのお役をいただいたことを感謝しております。

[FF活動の意味]　中部ブロック FR：森本 吉彦

今更皆様に向かって大上段に「FFの意義」を説くつもりは毛頭ありません。皆様ご自身が日頃愛知クラブで実践しておられるのですから、私が御託を並べる必要はありますまい。ただ今般貴クラブの広報の方から「何かNewsletterに寄稿して下さい」との要請がありましたので、以下に私の考えている事を少々述べさせて頂きます。2012年、広島クラブが世界大会を主催して下さいました。その時に**「平和・友情」**とのシンボル・メッセージを掲げられました。あれは素晴らしかったですね。これこそFF活動の神髄だ、と言えましょう。そしてその基盤は異国民同士の相互理解を構築する我々自身の地道な、渡航&受け入れ活動、に拠る。そう信じています。それには私達が諸行事に積極的に参加する。それによって道は自ずから拓ける筈です。私は2005年にFF大阪クラブに入会以来、毎年「渡航」・「受け入れ」には参加しています。また某メーカーに勤務していた現役時代は7年程の海外駐在を含めて10数年貿易部門の仕事に携わり、その間にざっと50ヶ国は訪れました。しかし、それは全て業務出張であり、このFFでの活動とはまるで違うものでした。ここではホーム・ステイが基本です。同じ家で寝て共に食事をし、お酒を飲む。話題は森羅万象に及ぶ。良かれ悪しかれ、お互いの相互理解は進展します。この10年余りの期間で、異国の14クラブに渡航し彼の地のご家庭に宿泊。また、26人の異邦人をわが家に受け入れました。いいですねえ。こういう体験は何物にも代え難い味があります。

愛知クラブには加藤八郎様という大先輩。他、敬愛する多くの諸兄姉がいらっしゃいます。FFI本部ではなんと Joy.E.Di.Benedetto 会長が就任2年余で近く退任なさる、とか。Atlantaは何かと騒々しいですが、幸い私共のクラブは独立した存在ですから、お互いに信じる道を胸を張って歩む事にいたしましょう。その先には必ず「光」がある筈ですから。

[FR:中部ブロック代表]

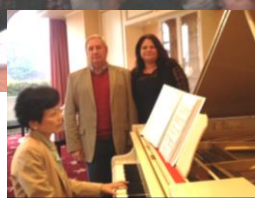
ブ ラ ジ ル 受 入 交 換

今回の受入ではフリーデイが２日連続してあるため１泊２日のショート ステイのホストを導入した。結果、ホストは助かり多くの会員が共に交流を楽しんだことが印象的だった。

ホスト：土居陽子　服部晶子　西村貴美子　宮本操枝　堀夏江　大矢道子　山口晴久
　　細川加代子　武藤美代子
ショート ステイ ホスト：有賀清美　重森隆子　長野よしみ　鷹野晴子

≪プログラム：愛知県の紹介とバスツアー≫

1. 愛知企業見学：担当　橋本忠幸　通訳　長坂　勉　送迎協力　塩谷増夫　久保三郎
　見学場所：キリン工場　トヨタ テクノ ミュージアム　ノリタケ（オプション）
2. 名古屋市内観光：担当　白木裕巳　山田晴久
　観光場所：金山⇒神宮⇒白鳥公園⇒熱田神宮⇒大須（地下鉄フリー切符を利用）
3. バスツアー　高山・白川村：担当　加藤紀子



≪アンケート・反省会から≫

交流について

フリーデイの午後から皆さんと同行しましたが日中のデイ ホストやホストの仲間と一緒になって太鼓やハーモニカ演奏をアンバサダーと鑑賞し、ブラジルのサンバを皆さんと子供たちと一緒になって踊りました。幼い子供たちもアンバサダーに手を引かれ、リズムに乗ってサンバ タイムとなったことは私の思いでの一つとなりました。お互いの文化を伝えることが出来て良かった。

ショート ステイについて

ホストをして今回はショート ステイの協力があり、大変楽で有難かった、その間、買い物、洗濯、掃除と用事が出来た。

ED：ショート ステイの取り入れは良かったようですね。今後も取り入れて行くと良いと思う。

デイ ホストについて

デイホストは送迎のできる方をお願いしたが今回は自宅までアンバサダーを迎えに来てくださり、夕食をすませてから送り届けて頂いた。高い高速料金を払って送り迎えをして頂き申し訳ないと思ったが反対に「交流を楽しむことが出来た」と感謝された。その日は大へん楽な１日でした。

ED: それが本当のありかたですね。デイホストは基本的に自宅まで送迎してホストを助けます。

ディナー ホストは気軽に

毎回交換の度にホスト、デイ ホストをして交流を楽しんでいるがいつも我が家でディナー パーティーを気軽に行っている。それは毎回ほぼ同じメニューでの持ち寄りパーティーだからだ。ホストはパンプキン スープとスペアリブ料理を用意し、持って来てくださるのはエビフライ、バンバンジーと決まっている。毎回同じであまり迷うことはない、海外からのゲストは毎回違うから。仲間と集まって会話しながら一緒に食事することが何より楽しい。

デザートは楽しい

≪初めてのホスト・デイ ホスト交流≫

初めて外国人のホストを経験して　　細川　加代子

今年度より加藤紀子さんの紹介で入会しました、今回ホストを引き受け、8日間を一緒に過ごす中で、一番印象に残った事は、言葉によるコミュニケーションを上手く使えなかった事です。英語が話せたら、もっと楽しむことが出来ただろう、もっと日本の良い所を紹介出来たのにと思いました。名古屋キャッスルでのフェアウエルパーティーでは、途切れることない沢山の料理に一流のホテルのおもてなしの気遣いを感じました。

満開の桜を見ながら、琴の演奏にブラジルの方々からは、ブラジル民謡の踊りやさくらさくらの合唱ありと、言葉は通じなくても、心で感動し、楽しむことができました。
今後も主人共々人生を楽しみ、世界平和の役に立ちたいと思い、この素晴らしい会を伝えていきたいです。ホストをできた事、皆さんのご協力に感謝します。

交流を楽しんだ　　デイ ホスト　植田　啓三

美味しいそば打ち

[26日]　加藤紀子さん宅で細川さんがホストされた親子を交えて10人ほどの食事会に参加した。紀子さんのハズバンドのドラム演奏に合わせるつもりの僕の歌が全然合わなくて恥ずかしかった。あの親子はどう思ってこの歌を聞いていたのか？
紀子さん：「それがとても楽しかったそうですよ」

[27日]　ホストの細川さん宅でそば打ちの食事会があった。名古屋の方からもアンバサダーを交えた20人程の人が集まり、賑やかな夕食を楽しんだ。

[29日] ブラジル親子のデイ ホストをした。生憎、雨の日だった。常滑散歩道、半田の酒蔵「国盛りミュージアム」、美浜等を案内した。

皆さんのご協力に感謝　　ホスト　服部　晶子

1日目の Welcome party の後、栄のテレビ塔、オアシス、桜を見ながら我が家へ、家近くのマーケットに寄り、食事の好みを確認しました。そこで朝食のパンを選んでもらいました。夕食後習字をしましたが Aurora さんはまあ適当が良い、Lana さんはとことん納得ゆくまで練習、二人の性格がはっきり分かれ、その過程が楽しかった。
デイ ホストの久保田さんご夫妻には心から感謝です。
喜ばれるからと着物を着て自宅へ迎えに来てくださり、お宅で本格的なティー セレモニー体験、大須などでの買い物や観光を楽しみ、夕食を済ませて我が家へ送ってくださいました。私たちはとても楽な一日でした。

ショート ステイ　　有賀　清美

1泊2日のステイは短期で受け入れる私は楽で主人と充分楽しませてもらった。また、瑞浪方面の皆さんが揃ってサポートしてくださり、一緒に交流を楽しんでくださったことは大変ありがたく嬉しかった。アンバサダーは良い性格でいるだけで楽しかった。74歳で英語の勉強をし、ホームステイするパワーに感動し、見習いたいと勉強になった。

Friendship Force Crosses Cultural Barriers

≪ Central North Carolina Club　2015年夏号の会報から≫

2007年秋、FF愛知の21名の会員はアメリカ東部のペンシルベニアとノースカロライナの二つのクラブを訪問し、楽しい交換をしました。その中でも山田晴久さんが初日からホストと良い関係を持とうと明るく頑張られる姿勢は印象に残りました。双方が幸せを感じることが出来た良い交流だったと思います。8年後のこの夏 セントラル ノース カロライナ クラブの会報にいつまでも人々の記憶に残るフレンドシップ フォースの良い交換として紹介されました。　―2007年ED 鷹野

The following excerpts are from a letter shared by Leroy and Valerie Stokes from the 2007 exchange ambassador from Japan whom they hosted. The letter was written for a local Japanese newspaper shortly after the exchange and was translated by Tomoko Thornburg. Even though the exchange was several years ago, memories of the exchange still linger for everyone.

My delightful stay in America by Haruhisa Yamada

I had the most unexpectedly wonderful experience ever in America. In North Carolina, my host family, Leroy and Val, took me into their home as if I was one of their family. Their hospitality was so friendly, kind, and warm. Especially, whenever we would go out to shop or dinner, Val took my hand and she walked cheerfully; like it was so much fun to have me. They asked me what I liked to eat and fixed delicious seafood dishes for me. I did not know that American food was so good.

The second night of my stay, Leroy asked me "Did you bring a tuxedo?" I came to understand that there would be a big gala for black people. I thought it would be impossible for me to fit in at such a party so I declined Leroy's offer to go. (At one of the group activities, Haruhisa met Tomoko Thornburg who explained to him the gala was to honor the four A&T students and was a fund raiser and that he should "be a delegate from Japan" at the evening event.)

Tomoko was right! On that night I had the most exciting and memorable party that I have ever attended.　After the eye popping party was over and we came home, Leroy, Val and I toasted for our friendship. On that night, Leroy and I took oath of the eternal brotherhood! By that time, I forgot how apprehensive I was before I met Leroy and Val. I had the notion that people in the East are aloof. On top of that, poor me, I was not familiar with black folks at all. As long as I live, I will never forget the precious memories with Leroy and Val.　(Tomokoさんは米国人と結婚された日本人)

＊リロイは2015年-2017年のクラブ会長

＊山田晴久さんのコメント

FFに入会して渡航をし、ホームステイで多くの海外の人達と交流を楽しみましたがノースカロライナでのリロイさんとバレリーさんとの交流はお互いに心の触れ合った最高のものでした。これは一生忘れられない私の宝となっています。

これからFFで渡航される皆さんも良い思い出になる交流をされることを願います。

Friendship Force makes a difference in our lives and in the lives of others!

クラブ内交流活動

≪親睦会　加藤八郎さん 87 歳の誕生会と半田祭り≫

有名な半田山車祭りの行われた 4 月 11 日、恒例の加藤八郎さんのお誕生日を祝う会が加藤事務局のお宅で催され、21 名の会員が出席した。新入会員の姿もあり、和気藹々の中で自己紹介をしながら楽しい親睦会となった。

加藤八郎さんのお話

無事に 87 歳の誕生日を迎えることが出来たがこれは FF があったからだ。70 歳で入会し、今年で 17 年になる。その間、受入、渡航の ED を経験し、APF、FF 愛知 25 周年記念祭と様々なイベントを楽しんだ。何よりもここ、愛知にいて世界中の人々と会い、交流できることは意義があった。毎年、年を重ねても FF の活動のお蔭でいつも前向きな人生をおくってこれたことを感謝しています。

皆さん、有難う！

桜木さん：入会して 22 年になるが受入、渡航を数多くやり、様々な経験をした。1 週間生活を共にすると人間の本質的なところが分かる。ホームステイではホストがハピーになってもらえるよう気を遣った。いつも「一期一会」の精神でやってきた。楽しい FF 人生だった。

山口夫人：6 年前にこの会に入会した主人が FF 大好きで何度もホストをやらされているうちに会員の皆様の楽しい雰囲気に引き込まれて私も会員になりました。今年モンタナへ皆様と一緒に渡航いたします。よろしくお願いいたします。

≪カラー コーディネイトの講習会　5 月 18 日≫

5 月 18 日 15 人の会員が集まりカラー コーディネイターの冨本いちこ先生を迎えてパーソナル カラーについて学びました。先生からのアドバイスを得てそれぞれ改めて自分に合うカラーを再認識することが出来ました。楽しい時間でした。

≪8 月のクラブ活動の担当者を募集中≫

・楽しい活動を企画、担当してくださる方は事務局加藤までご連絡ください
・偶数月の英語勉強会は引き続き 12 月まで行われます。皆さん最後までがんばりましょう。

[原文要約]　楽しかったアメリカのホームステイ　山田晴久

ノースカロライナのリロイさんとバレリーさんは私を家族の一員として大変優しく、フレンドリーに迎えてくれた。いまだかつてない本当に素晴らしい経験をさせて頂いた。特にバレリーさんは買い物に行く時も私の手をいつもとって歩き、陽気にふるまってくれた。二日目の夜、リロイが「ハル、お前タキシードを持ってきたか」と突然聞いた。私はびっくりしたがすぐに黒人のための大きなパーティーがあることが分かった。私はそんなすごいパーティーに出るのは自分には無理だと思いリロイと一緒に行くことを断った。Tomoko さん(安藤さんのホストの隣の住人)に話したら「それは行くべきだ。有名な黒人のパーティーで学生のための資金集めをする、日本の代表として出席すべきだ」と言われた。Tomoko さんの言うとおりだった。その夜私は今まで経験したことのない素晴らしいパーティーに出席して感動した。帰宅して私たちは我々の友情に乾杯しリロイと私は永遠のブラザーであることを誓い合った。リロイとバレリーに会うまでは黒人の世界についてまったくうとい自分であった。私はこれから生きている限りリロイとバレリーの大切な思い出は決して忘れることはないだろう。

報 告 と お 知 ら せ

モンタナ渡航 7 月 1 日～8 日　　ED：稲葉　千賀子　AED：加藤紀子
参加者 20 名：加藤孝、仲村、植田、細川夫妻、山口夫妻、久田夫妻、
沢野井、広光、渡辺、服部、重森夫妻、安藤、小林、須田

モンタナ州と日本のフレンドシップ フォースとは歴史的に深い関係がある。1980 年に知日派としても知られる当時の駐日大使マンスフィールド氏の出身地であるモンタナ州との同時交換が東京で行われた。モンタナ州から 250 名ものアンバサダーがチャーター機で成田に着き、その飛行機で日本から 250 名のアンバサダーがモンタナ州へ渡航した。東京クラブの誕生の頃のことである。

マンスフィールド大使はモンタナ州グレートフォールズ出身で 1977 年当時の大統領ジミー カーターにより駐日大使に任命され 1989 年まで長期にわたって大使を務め、日米交流に尽力された。

双眼鏡や植物図鑑を持つ人が多いと言われる自然豊かなモンタナで 20 名の皆様が楽しい交換をされますよう応援します。

≪FF 愛知 2016 年の予定≫

渡航：Detroit Michigan, USA.　　7 月
受入：Wellington　New Zealand　　3 月
　　Coatepec　Mexico　　10 月

≪2015 年日本大会及び中部ブロック会議開催 9 月 26 日～27 日≫

中部ブロック会議参加者：19 名
岐阜日本大会参加者　　：21 名

編集後記

2015 年も 6 ヵ月を過ぎようとしています。ニューズレターは今回で No.104 の発行になりました。後 9 月、12 月の 2 回をもって 2015 年度も終了します。皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。2016 年度からは一新して若い世代の編集者に担当していただく時期に来たと思います。愛知クラブは最近会員の半数の方が新しい若い会員で FF の活動に積極的に参加されています。新しい発想でのニューズレターが期待されます。編集・作成にご興味のある方は広報までご連絡ください。 9 月号からの作成をご一緒にしませんか。　　広報担当：鷹野晴子

編集・発行：FF 愛知　会　長：土居　陽子　ddyokodd0607@xj.commufa.jp
〒458-0015 名古屋市緑区篠の風 2-401

事務局：加藤　紀子　puppy-nk@cac-net.ne.jp
〒475-0833 半田市花園町 6-27-19
ニューズレター 編集・作成　：鷹野　晴子　htkn@ma.medias.ne.jp

ホームページ　　担当　：冨岡　達也　http://ffaichi.web.fc2.com/